

京都嵯峨芸術大学短期大学部

平成18年度第三者評価

機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

京都嵯峨芸術大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 大覚寺学園
理事長	坂口 博翁
学 長	三好 郁朗
A L O	佐野 仁志
開設年月日	昭和46年4月1日
所在地	京都府京都市右京区嵯峨五島町1

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
美術学科		250
	合計	250

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員	
デザイン専攻	20	
美術専攻	30	
	合計	50

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

京都嵯峨芸術大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月6日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

「建学の理念」、「学園の使命」などを明記した「教育憲章」や、短期大学部および専攻科についての教育目標も明確である。また、それらの点検・検証のプロセスも確立されており、学生、教職員への周知のための工夫や努力が認められる。

教育課程は体系的に構成されており、多様な学生のニーズへの対応もなされ、授業改善への意欲が認められる。

校舎は短期大学開設以来から、大学の拡大に従って増設されており、建替えも予定されている。教員組織、教育環境はおおむね整備されている。

授業評価や授業の満足度調査を実施して教育成果を検証していることは評価できる。卒業生に対する満足度調査は期間を定めて継続的に実施することが望ましい。専攻科の教育目標はおおむね達成されていると思われる。退学者、休学者および留年者は、履修方法の変更や個別指導の導入より減少傾向にある。

進路支援については編入や専攻科への進学数が多く、その体制は整っている。短期大学独自の奨学制度を設けていることは評価できる。

研究発表、作品展の開催など研究活動は活発に展開されている。大学の支援体制も充分である。講義系教員には個室、実習系教員は大部屋であるが、作品制作に必要なスタジオ、暗室、木工室、金工室、ロクロ成型室、陶芸炉室などが整備されている。

社会的活動については大覚寺学園教育憲章「学園の使命」の中に明確に謳われており、芸術系であることの特殊性や京都という立地を大いに活用して社会的活動は極めて活発である。学園母体の大覚寺の諸行事にも教職員、学生は積極的に参加して地域貢献に努めている。海外美術研修も既に定例化しており、専攻科においては短期留学の単位化が実施されている。公開講座活動は「京都嵯峨野文化サロン」の毎年10月の開催、生涯学習講座

を20回程度開催、さらに連続講座「京の美意識」の開催と極めて活発である。また、小・中学校や高等学校への作品指導などに取組んでいる。学内博物館・ギャラリーで開催される展覧会の一般開放も行っている。

理事会は寄附行為に従って管理運営を適切に行っている。学長のリーダーシップはしっかりしており、教職員の短期大学運営への意欲が感じられる。

財務管理は適切に行われている。今後の厳しい環境への対処のために中・長期の財政計画、事業計画の策定を予定していることは評価できる。

自己点検・評価委員会に加えて、学長諮問機関である「大学評価会議」において自己点検・評価の結果を検討するシステムが機能しており、改革・改善、将来計画にも対応している。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

博物館、美術館などの団体鑑賞により美意識の向上を図っている。

一般向け連続公開講座「京の美意識」に学生の参加を促している。

評価領域 教育の実施体制

図書館にて地域子供向けイベント「あらし山びこ」を定期的開催している。

評価領域 研究

学内に附属ギャラリー、博物館が整備され、教員や学生の作品発表の場が保障されている。

評価領域 社会的活動

地域の特性をいかした様々な形態の公開講座を開催している。

地域社会（商店街）の活性化など学生の参加が活発である。

評価領域 改革・改善

「大学評価会議」を学長諮問機関として設置しており、その機関が改革・改善、将来計画に対して機能するとともに、学長のリーダーシップを担保している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育の内容

当該短期大学の教育目標に合わせた選択系各科目群の精選が早急に求められる。語学科目の記号表記について改善が求められる。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標・目的の達成を目指したカリキュラムの精選とスリム化について検討されたい。

評価領域 学生支援

就職率は向上しつつあるが、就職希望者に対しては、さらなる就職支援を行うことが望ましい。

評価領域 財務

人命尊重の観点から避難訓練を早期に実施されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

宗教法人大覚寺を母体として昭和46年に短期大学が設置され、平成13年度に大学を設置して既存の短期大学を大学短期大学部の名称に変更した。建学の精神・教育理念は、平成15年度に制定した大覚寺学園「教育憲章」の中で明確にされている。また、それらの点検・検証のプロセスも確立されており、学生、教職員への周知のための工夫や努力が認められる。

大覚寺学園教育憲章に明確に謳われているとおり、短期大学部の教育目標・目的は美術学科、専攻科それぞれ明確である。これらの見直しについては、学長の発議による教授会での協議というプロセスが確立している。

学生に向けては入学時における理事長法話、学長スピーチ、「大覚寺見学会」などで、教職員に対しては「月例法要」への参加などで建学の理念の理解を深めている。教育目標・目的については、学生必携やシラバスなどに記載することにより周知に努めるとともに、必修科目「教養ゼミ」においてその浸透に努めている。

評価領域 教育の内容

教育課程は体系的に構成されており、多様な学生のニーズへの対応もなされている。ただし、選択系各科目群に配置する科目数が必要以上に多いので、教育理念、教育目標・目的に沿って精選する必要がある。一方で、社会貢献に関わる科目の単位化なども検討事項として俎上に上っており、授業改善への意欲が認められる。

各科目群に十分な科目が配置されており、学生の多様なニーズに対応したメニューにな

っている。

シラバスで授業概要、授業計画、評価方法および参考図書などが明示されている。

学生による授業評価、授業の満足度調査などにより、授業内容および教育方法が点検され、改善に努力している。また、語学や情報処理などで習熟度別の導入が検討されており、単位互換制度は大学学部および大学コンソーシアム京都との間で確立されている。

評価領域 教育の実施体制

講義室、情報処理習室、美術、デザイン系実習室はおおむね整備され、充分活用されている。さらに図書館は教養、専門分野ともその蔵書数は充分確保されている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

授業評価や授業の満足度調査を実施して教育成果を検証していることは評価できる。ただし、専門分野の演習実習はおおむね単位取得されているが、教養系や専門分野での講義系の不可認定率と履修辞退率については、カリキュラムの点検が求められる。卒業生に対する満足度調査は期間を定めて継続的に実施することが望ましい。専攻科の教育目標はおおむね達成されていると思われる。退学者、休学者および留年者については、履修方法の変更や個別指導の導入より減少傾向にある。

評価領域 学生支援

建学の精神、教育目標、育成しようとする人材など大学案内、募集要項、ウェブサイト適切に明示されている。入学時にシラバスや保健室たよりなどを配布し、オリエンテーションも適切に行われている

入学時のオリエンテーションのほか、各学期に履修ガイドを実施している。チューター制の導入や教養ゼミによって、文章表現や一般常識など基礎的学力の向上に努めている。学生生活支援は、教員組織としては学生部委員会、事務組織では学生課が対応し、必要に応じて教授会で協議するなど体制は確立しており、学友会やアンケートにより学生の意見を聴取している。

就職はキャリア支援センターならびに学生部委員会が対応している。企業訪問を実施している。編入対策としてガイダンスおよび個別指導を実施している。

留学生対応として個別対応、下宿の斡旋などを行っている。

社会人対応として、社会人学生のクラブ「生き粋倶楽部」の作品展示などを支援している。

進路支援については編入や専攻科への進学数が多く、その支援体制は整っている。就職

希望の学生に対しては、一層の努力が求められる。留学生、社会人の入学数は少ないがその支援には心をくわいて対応している。短期大学独自の奨学制度（授業料の1/2相当額）を設けていることは評価できる。

評価領域 研究

研究発表、作品展の開催など研究活動は活発に展開されている。研究活動や作品発表に対する大学の支援体制も条件も整備は充分といえる。講義系教員には個室、実習系教員は大部屋であるが、作品制作に必要なスタジオ、暗室、木工室、金工室、ロクロ成型室、陶芸炉室など整備されている。週4日の登校制となっており、研修日は確保されている。外部資金の獲得に向けての取組みが期待される。

研究活動の活性化のために、学内組織「芸術文化研究所」による研究課題の募集と、採択課題への研究費の給付制度がある。紀要の発行、作品展のウェブサイト、ダイレクトメール、ポスターによる広報も活発である。

評価領域 社会的活動

社会的活動については大覚寺学園教育憲章「学園の使命」の中に明確に謳われており、芸術系であることの特殊性や京都という立地を大いに活用して社会的活動は極めて活発である。学園母体の大覚寺の諸行事にも教職員、学生は積極的に参加して地域貢献に努めている。海外交流も既に定例化しており、専攻科においては短期留学の単位化が実施されている。公開講座活動は「京都嵯峨野文化サロン」の毎年10月の開催、生涯学習講座を20講座程度開催、さらに連続講座「京の美意識」の開催と極めて活発である。また、小・中学校や高校への作品指導などに取組んでいる。学内博物館・ギャラリーで開催される展覧会の一般開放も行っている。

社会的活動は京都市商工会、地域商店街などと連携しながら活発に推進されており、また、図書館において子どもを対象とした「読み語り」行事を定期的に行っているなど社会貢献への取組みは充分である。

学生は地域商店街の活性化事業や観光行事に積極的に参加しており、また、ストリートアート展を開催するなど芸術系であることの特殊性を十分に発揮している。

イギリス、インドの提携大学へ学生を毎年派遣しており、教員も海外に作品を発表しており、国際交流への取組みはなされている。

評価領域 管理運営

理事会の管理運営体制は確立している。

事務組織は、組織構成、人員とも適切である。

人事管理については、就業規則に従って適切に行われている。

学長のリーダーシップはしっかりしており、教職員の短期大学運営への意欲が感じられる。

評価領域 財務

美術・デザイン系に関わる施設・設備は十分に充足しており、施設設備の管理はおおむね適切である。

財務管理は適切に行われている。今後の厳しい環境への対処のために中・長期の財政計画、事業計画の策定を予定していることは評価できる。

評価領域 改革・改善

自己点検・評価委員会に加えて、学長諮問機関である「大学評価会議」において自己点検・評価の結果を検討するシステムが機能し、改革・改善、将来計画にも対応しており、学長のリーダーシップが発揮されている。